

災害メモリアルアクションKOBЕ 2018 「阪神・淡路大震災の教訓って？」

神戸学院大学・現代社会学部・社会防災学科・安富ゼミ

すすかけ台小防災キャンプ

7月30日と31日に三田市立すすかけ台小学校で防災キャンプを行いました。体育館に避難所での生活と同じようにダンボールで寝たり非常食を食べたりしました。ダンボールでのベットの作り方、非常持ち出し袋、新聞紙でのスリッパ作りをし、避難所での体験をして小中学生たちに、このキャンプに参加して何を学べたかのアンケートをしました。非常持ち出し袋では、非常食、飲料水、ラジオ、救急セット、懐中電灯が多かったです。タオル、雨具、軍手、ビニール袋やラップもありました。



街頭インタビュー

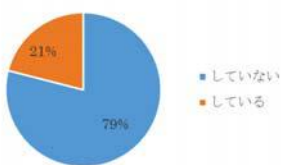
地域によって震災への意識、教訓の違いがあるのかを調べるため、11月22日に神戸市営地下鉄西神中央駅付近で、11月26日は阪神芦屋駅前、12月1日には三宮のセンター街とポートアイランドのダイエー前の4地区に分かれ街頭インタビューを行いました。計59人にインタビューを実施し、家具の固定をしているかや、次世代に伝えたいことなどを聞きました。家具の固定をしている人は多く、いつでも逃げられるようベットの近くにスリッパを置いておくなど、震災の体験が役に立っていることが伺えました。



学内アンケート

11月3日の人と防災未来センターでの中間発表の際、私たち世代の考える教訓とは何か？の問いから神戸学院大学の現代社会学部、法学部、経済学部、経営学部、グローバルコミュニケーション学部の一年次生を中心にアンケートを実施、510人から回答を得ました。アンケートの内容は①家具の固定をしているか②現在住んでいる所の避難所を知っていますか③大学で防災の授業を受けたことがあるか④阪神淡路大震災の教訓は何か——などを聞くことができました。家具の固定をしている人は5人に1人と少なく、大学で防災の授業を受けたことある人とない人の差があまりないことがわかり、軽くショックを受けました。

家具の固定をしているか



ラジオ出演・新聞掲載

11月28日と12月19日の2回、ラジオ関西の「時間です！林編集長」に向田健司、井上太賀、塚本真央子、富岡美祈の三年次生4人が出演。「災害メモリアルアクションKOBЕ2018」への取り組みについて話しました。他にも私たち自身が考える阪神淡路大震災の教訓とか何かを話し、ラジオのリスナーに聞いていただいた。日頃から阪神淡路大震災について考えたり、思い出したりすることがない人達が震災について考え直すきっかけになったりしたらいいな、と思いました。

また、12月1日のポーアイインタビューでは、産経、神戸新聞の取材を受け、翌日の紙面に掲載されました。



メンバー紹介

教授 安富 信
3年 和田 貴士 菅原 由衣 富岡 美祈 塚本 真央子 大家 元希
井上 太賀 南木 颯人 向田 健司 仲上 芽花 山村 勇貴
2年 長井 裕貴 寺井 美紀 林 修功 川口 祐生 東 萌菜美
森脇 稔彦 森 達也 巽 翔 岡崎 琳太郎 寺尾 莉子
池内 麻菜美 土居 大輝 池上 ひなの

神戸学院大学
ポートアイランドキャンパス

〒650-8586
兵庫県神戸市中央区港島1-1-3

TEL : 078 (974) 1551

